



「カテキズムの学び」

第42回 洗礼の秘跡(前半)



入信の秘跡のうち、最初の洗礼の秘跡についての学びが始まりました。

聖なる洗礼はキリスト者の生活全体の基礎、霊的生活の扉、他の諸秘跡に導く入り口です。(1213番)

カテキズムがこう述べているように、七つの秘跡の中で他のすべての秘跡への入口とも言えるのが洗礼です。洗礼はキリストが制定した秘跡ですが、それ以前の旧約時代の様々な出来事が実はその前表であったことが、復活徹夜祭における水の祝福の祈りで語られます。

天地の初めにあなたの霊は水の面を覆い、……ノアの洪水の時、水をあふれさせて、……エジプト脱出の時、海の中に乾いた道を備えて約束の地に渡らせ、ファラオの奴隷から解放して…。(水の祝福第一形式)

クラスでの質疑応答では、旧約の出来事が前表かどうかは容易に分かるのか……という質問がありました。そのことについてカテキズム自身がこう答えています。

キリストを基にして、真理の霊によって読みなおすとき、前表(予型)の意味が明らかにされます。(1094番)

こうして長い時間をかけて準備された洗礼の秘跡ですが、成人洗礼の場合は通常、求道期間にカテキーズを受けた後、入信の三つの秘跡である洗礼、堅信、聖体が続けて授与されます。幼児洗礼の場合は、洗礼から初聖体、さらに堅信と10数年に渡ってカテキーズを受けながらとなります。

さて、幼児洗礼は「子どもには一番いいものをなるべく早くという親心から考えれば当然」と説明したところ、動画を見られた方から「宗教は自由と言うのもわかるような気がして、あえて何も触れずに来ていましたが、やっぱり、いいものは与えたい! かわいい孫なら尚更です」という反響がありました。さらに、ご自身を振り返って「私は幼児洗礼だから、こんな真面目な勉強はしていませんが、でも今聴くとよくわかります。楽しく理解でき、いろいろなことが繋がっていきます。やっと学習のときが来ました」と言われていました。皆さんも一緒に学びませんか? (文 酒井俊弘補佐司教)

ガラシア健康だより

介護予防 ～介護をする人受ける人へ～

大阪府箕面市に本拠を置く医療法人ガラシア会から、全6回の介護予防をテーマにした健康情報をお届けさせていただきます。皆さまの健康への一助になれば幸いです。

第一回 介護予防とは

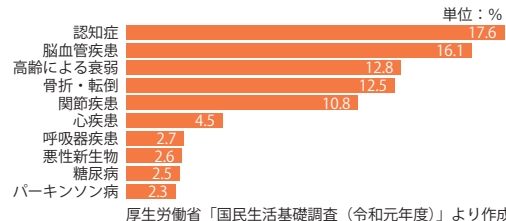
■健康を保つことは誰のためか

厚生労働省の令和3年度末の報告によると、65歳以上の18.7%は要支援・要介護認定を受けています。75歳を超えるとその割合はさらに上昇すると言われています。また、主な介護者の年齢は、60歳以上が全年代の70%以上を占めています。つまり、60歳を超えると誰かの介護をすることになり、75歳を超えると誰かの介護を受けることとなります。老老介護問題を抱える現代社会において、介護負担を減らすことは重要な課題と言えます。介護をする人は体力が必要ですので、介護を受ける人自身が少しでも多くのことをできれば、介護をする人の心身の負担は軽減されます。自身が最後まで豊かな人生を送ることはもちろん、誰かを介護するために、また介護してもらう誰かのために、よりよい健康状態を保つことが大切と言えるでしょう。

■介護をする人受ける人の心の準備

表に示すように、さまざまな要因で介護を受ける状態となります。いつどのような形で介護が必要になるかの予測は難しいですが、これを機にご自身が介護を受ける、または介護をすることになったときのことをご家族で話をしてみてはいかがでしょうか。終の棲家について、在宅介護サービスについて、外出や日常生活に介助が必要になった場合についてなど具体的かつ前向きに話をしていくとよいでしょう。「ガラシア健康だより」では、各種病気やケガの予防法について、介護をする人、受ける人の視点でお伝えさせていただきます。ぜひ、最後までお付き合いください。

表 介護が必要となった主な原因の構成割合



ガラシア健康だよりのテーマ

回数	テーマ
第一回	介護予防とは
第二回	脳卒中・心臓病の予防
第三回	骨・関節疾患の予防
第四回	認知症の予防
第五回	転倒予防
第六回	誤嚥性肺炎の予防



ガラシア病院では…

ソーシャルワーカーが医療と介護の相談・援助を行っています。必要に応じて地域の医療機関・福祉機関と連絡を取り合い、在宅療養への準備もお手伝いいたします。

ガラシア病院地域医療連携室
お問い合わせ：072-729-2345

「生きる」—難民移住者

世界難民の日によせて

昨年 UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は「世界の難民は一億人を超えた」と発表しました。そう聞くと、私たちは難民を大きな負の塊のように捉えてしまい、「日本の経済や治安を脅かすお荷物集団の受け入れは御免だ」という感情がわいてくるのではないのでしょうか。

確かに難民には負の印象が付きまといまふ。私の経験からも、迫害の恐怖を体験した人は暗く無表情で、眼は人間への不信感に満ちていることがあって、正直にいうと初動の時には「負



さんの耳を見た日本人が「スポーツをやっているの」と声をかけてきました。実はSさんは本場でレスリングをやっている、何度も世界選手権を勝ち抜いた経歴の持ち主でした。耳で声をかけるとはさすがレスリングの盛んな松阪市です。

Sさんは松阪レスリングクラブに招かれて、コーチとして青少年の育成に携わりました。中にはレスリングの強豪大学に進学した若者もいて、彼はクラブから何度も感謝状を贈られました。

もし銭湯で出会った人が「怪しい外国人だ」と感じれば、Sさんに距離を置くか、或いは警察に通報した可能性もあったでしょう。よそ者として見るよりも耳を見て親近感を持つてくれた人のお陰で、Sさんは「器のあるレスリングの指導者」として力を発揮する道が開かれ互いを尊敬しあう関係性が生まれたのです。

Sさんは今、難民の保護申請中の身です。今後入管が彼を収容したら、私は松阪レスリングクラブの人に嘆願書を書いてもらおうと思います。

6月20日は世界難民の日。難民を「お尋ね者」的に見るのか「善き訪れ者」的に見るのか、私たちが考える日です。

(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

訃報

場知賀 礼文神父(淳心会)は、2023年3月24日、心臓発作のため帰天。87歳。ベルギー出身。



1956年、淳心会に入会。61年に司祭叙階。62年来日。日本語を勉強し、その後、大阪教区小神学校で会計を努め、後に大阪大学にて宗教社会学を学ぶ。69年、72年、加古川教会・中山手(現神戸中央教会)で助任として司牧をしながら、勉学に励む。

70年より英知大学でも非常勤として努め、77年より長年にわたり、京都の佛敎大学で教鞭をとりつつ、さ



Sr.岡野きよ(大阪聖ヨゼフ宣教師道女会)は、2023年4月15日、乳癌によりガラシア病院(ホスピス病棟)で帰天。93歳。宮城県出身。奉獻生活64年。

Sr.マリア クリステラ 渡邊(聖フランシスコ病院修道女会)は2023年4月3日、ドイツ・ミュンスタにある聖フランシスコ病院で帰天。79歳。新潟市出身。奉獻生活51年。



入会前に大病院で看護師として勤務中に受洗。1972年初誓願。姫路聖マリア病院、聖フランシスコ病院(長崎)に勤務。看護部長、病院長の責務を果たした。日本管区の顧問、管区長を歴任し、2000年の総会以来、総顧問として12年間務め、日本管区長を受任。18年再度ドイツ総本部の奉仕を受任。19年体調を崩し、数回の大手術と治療にも耐え、4年間最期まで治癒の希望をもち過ごした。人懐っこく、歌と踊りが好きで、だけれども愛された。総本部聖堂で多くの人に見守られ、敷地内の先輩姉妹たちが眠る墓地にともに葬られた。